

令和5年度第1回 いいづな歴史ふれあい館協議会

会議メモ

日時：令和5年(2023) 5月11日(木) 10:00~12:05

場所：いいづな歴史ふれあい館 小ホール

1 開 会

富樫館長:これより第1回協議会を開催します。次第の5までの進行を務めます。

2 あいさつ

馬島教育長:本日は大変お忙しい中、ありがとうございます。新しいメンバーを加えての第1回目の協議会となる。当館が町の歴史や文化を伝承し、住民の学びの拠点、住民のための施設となるためにどのように運営していけばよいか、皆様にご意見をいただき事業をすすめていきたい。それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくをお願いします。

富樫:日程調整にあたってはお忙しい中、予定を変更してまで本日の会議開催にご協力をいただき、ありがとうございます。当協議会は、長く休眠状態になっていましたが、令和元年11月1日に再開し、以後、館のこれからについて検討をいただけてきました。令和7年度は町制20周年記念の年となる。そのタイミングを逃さずに、将来のために、館として変えていくべきところは変えていくという作業をしっかりとすすめていきたい。ついては、自由な発想で、アイデアやご意見をいただければと思います。どうかよろしくをお願いします。

3 協議会委員の委嘱について

・委員ならびに出席者について（自己紹介）

富樫:当館館長の富樫均です。令和元年からお世話になり、今年で5年目になります。館が抱える課題は山積みで、それらを解決するには予算という問題がある一方で、あまりお金をかけずとも出来ることはたくさんあることもわかってきた。それらを見据えた計画をもとに、これからの館の活動を進めていきたいと思えます。

高橋教育次長:事務局教育次長の高橋秀一です。よろしくをお願いします。

馬島:改めて、教育長の馬島敦子です。

山下委員:倉井の山下勲夫です。一昨年から地域の農業者という立場で関わらせていただいています。用水の展示等にも興味があり、また協力をさせていただいています。

宮本委員:町で食育推進活動グループの「だんごりの会」をやっています。対象は保育園から高校生まで、学習のお手伝いをさせていただいています。今年とはくに「食」に関わる特別展があるので、私たちも会をあげて全面的に協力させていただきたい。

松木委員:福井団地におります松木洋二です。館との関わりは、古文書教室で小山さんに教えていただいています。ボランティアや社会活動をやっており、妙高市や長野市でも活動しています。他地域の状況とも比較しながら検討していきたい。

西村委員:ツチクラ住建の西村啓大です。生まれ育ちは鹿児島県の屋久島というところで、21年前に越してきました。もう飯綱町の暮らしの方が長くなっております。館を訪れたのは移住し

て10年くらいが経ってからでした。町への移住者を案内するのに、この施設が町を知る上で素晴らしい所だということを見出し、それ以来、月1回くらいはここを訪れている状況です。案内する人がいる時とない時、それによっても違いがある。町にとってこの館がある意味はとても重要だと感じている。何かご協力できることがあれば。

中村委員:中村芳人といいます。協議会委員であると同時に、町の文化財保護審議会のほうにも参加させていただいています。この館に「ふれあい」という名がついたのには、町(当時は村)を知っていただくとともに、住民の皆さんが参加し一緒に活動をしていこうという意味であったと思います。一昨年に文化財展が開催されましたが、私たちが文化財を再発見していくということも大事だと思う。移住者の方々も含め、町民の皆さんにここを大いに利用していただけるよう、利用したくなるような活動を、一緒に考えてゆきたい。

近藤委員:信濃町の野尻湖ナウマンゾウ博物館の近藤洋一です。博物館を中心とした地域づくりをやっており、飯綱町とも協力しながら、もっと広く、地域の発展のために何ができるかを考えていきたい。

近藤委員:近藤正と申します。現在、長野県高等学校教職員組合の書記長をやっております。7年前まで北部高校にいて、5年間の在職中、歴史ふれあい館やナウマンゾウ博物館、だんだんどりの会の皆さんにも地域授業で大変お世話になった。学びや体験の拠点ということで、こういう施設が町にあるのはとてもありがたいこと。高校の教員であった経験を生かし、意見を言わせていただければ。また今年は西黒川分館の分館長も引き受けており、分館の活動でもこちらを利用させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

黒柳委員:天文協力員の黒柳賢次です。もともとは中野にいましたが、今は飯綱町の小玉におります。協力員会として月2回の観望会をやっておりますが、昨年までコロナ禍で出来なかった活動を、今年から再開していきたいと思っています。

沖委員:4月から町の公民館長を仰せつかった沖と申します。この協議会でも公民館活動でも、皆様にお世話になることと思います。ぜひよろしくお願いします。

小山:事務局の歴史ふれあい館学芸員の小山と申します。協議会の事務方をやらせていただきますので、よろしくお願いします。

4 協議会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2

富樫:事務局から当協議会の位置づけと、何をやる会議かということについて概要説明。

5 協議会会長ならびに職務代理の選出（会長は委員の互選、代理は会長の指名による）

会長 中村芳人さん 職務代理 宮本久子さん

中村会長:みなさんのお力を借りて、会議がスムーズにいくように、いいアイデアが生まれるようにお願いし、務めさせていただきます。

宮本委員:ご存じのように高齢ですが、どうかよろしくお願いします。

会長 あいさつ

中村:力を合わせてやっていきたいと思いますが、当面令和7年度の町制20周年記念に向けて、特別展等について考えていくことをこの2年間の大事な仕事のひとつとしていきたいと思っております。令和7年に実施することを考えると6年度までにはその中身を検討しておかなければ

なりません。ぜひ具体的にすすめられるように、ご協力をお願いします。

6 議 事（進行は中村会長）

(1) 歴史ふれあい館の活動(報告・予定)

- ・ 令和4年度の事業報告 資料3
- ・ 令和5年度以降の事業予定 資料4
- ・ 基本計画とリニューアルに向けて 資料5

中村: 令和4年度の活動報告もありますが、時間の制約があるので、令和5年度以降の予定と基本計画とリニューアルについて重点的にすすめていきたいと思いますがよろしいでしょうか。資料3と4の報告事項については委員の皆様は後で目を通していただくようお願いいたします。今日は新しい委員の方々もおられますので、まず、この館の現状と課題、そして今後どのような館にしてゆけばよいかについて、これまで検討してきた内容をまとめて事務局から説明をお願いします。

富樫: 資料5の館の基本計画(案)を中心に、概要を説明します。この計画(案)は令和4年度に検討してきたことをまとめたもので、今月25日の定例教育委員会で協議事項として上程される予定の資料です。基本計画には、館がこれからどういう施設になっていけばよいかをまとめてあります。令和7年度に向けて行う改修は、基本計画にある目標にこの館が近づくための第1歩ということになります(資料に沿って概要を説明)。

中村: ありがとうございました。この構想や計画がなぜ出てきたかという、三水村と牟礼村が合併し令和7年に町制20周年を迎えるわけですが、牟礼村の博物館としてスタートした歴史ふれあい館の展示が、今も牟礼村時代のままになっているという問題がある。展示に三水村のこともとり入れ、名実ともに町の歴史ふれあい館にしてほしいという要望があるわけです。また開館当初から言われてきた問題ですが、資料や文書を保管する収蔵庫がいっぱいになっています。会議資料にもあるように、町民の方々からも様々な要望があがっています。さらに館ではこれまでも特別展や講演会を開催していますが、町民の方々の見学や参加がまだまだ少ない。町の自然・歴史・文化への住民の関心や意識をどうすれば高められるかという問題があります。町制20周年記念の年に向けて、可能な限りそれらの解決策を練っていくことが、大事な仕事になります。そして、令和7年度の特別展のテーマをどうするか、これも課題です。「歴史ふれあい館はこういうことをやっていたのか」、「ここはこういう町なのか」ということを、町民の皆さんと一緒に気づくことができる特別展を検討していきたい。こういったことについて皆様方にざっくばらんなご意見をいただきたいというのが、館長さんの希望されていることだと思います。いかがでしょうか。通常、施設のリニューアルといえば莫大な経費がかかるわけですが、その点は教育長さん、それはなかなか無理なことですね。

馬島: 今あるものをじょうずに生かして、ということになるとは思いますが、それでも将来的に飯綱町の

ふれあい館にするために必要なことはやっていかなければと思っています。

中村:会議資料の15ページにもあるように、既存展示の改修箇所の絞り込み、そして特別展のテーマや中身についてもアイデアをいただきたい。初めての委員の方々にも、新しい感覚でこんなことを考えたらどうだ、というようなご意見をいただければ。

委員:質問ですが、改修箇所の選定というのは、この計画に沿ってということになるでしょうか。

富樫:はい。たとえば計画の8ページにあるように、既存展示があり、改良・補足・追加の計画が示されています。ここに上げられていることの中でも、とくにここは優先してやったほうがよいというようなご提案をいただければ、ありがたい。

委員:特別展企画のテーマということでは、計画の中にはすでに「災害」のテーマも書いてあるが。

富樫:構想の図の中にあるステップ4の「災害」のテーマは、既設展示の中に新たに盛り込めそうな話題探しという意味で「災害」のテーマを提案した。今検討をしたいのは、20周年記念特別展にふさわしいテーマとして、何か良い企画テーマがあれば、ぜひお願いしたい。

委員:計画8ページの2階展示に関わることですが、私が中野西高校に勤務していたとき、芋川君という生徒がいました。飯綱町にも芋川という地区があって、芋川姓は全国にある。何年か一度に芋川サミットというのも開催されているようだが、三水の芋川地区には芋川姓の人はいないということを不思議に思っていた。その後、大倉城祉で、織田に攻められてたくさんの人が亡くなったという説明を見て、当時住民総入れかえのようなこともあったのではないかと思います。そういう戦国時代のダイナミックな人の動きのようなことが、「山城のあった時代」という展示とともに良いテーマになるかなと思う。全国芋川サミットを、町制20年のイベントにできないか、きっとマスコミの注目も集めるし面白いかなと思います。

中村:今のアイデアはとても大事で、ありがたいと思います。

馬島:愛知県の豊田市に松平というところがあり、徳川家康の先祖がいたような場所なのですが、そこには松平家の家老だったような家系の人が今も残っている。

委員:織田信長に追われて近藤姓の人たちが愛知県方面から諏訪に逃げて来て、そこからさらに上越方面にも向かったということがあるようで、先祖やルーツとからめた人々の大移動という話は、面白い歴史だと思います。

馬島:そういえば、横手地区には寺島姓にまつわる話もあった。

富樫:小山さんから関連して情報があれば、お願いします。

小山:全国芋川会の総まとめをされていたのが小布施の芋川さんで、三水村の時からこちらとも行

き来があった方でした。確かもう亡くなられていて、会も、全国サミットも、かなり前から行われていないようです。でも、こういう話には「うちが本家だ」というようなことがいろいろ出てくるので、どちらか一方だけを取り上げて、公共の施設で展示するのは難しい。そこまでは突っ込まなかったが、展示会として以前「飯綱町の戦国乱世」を行い、図録も作成した。そこにはさっきの三河門徒のことも掲載している。展示品の準備が難しく、町の中から展示物を探すのが困難で、借り集めるのは大変で手間とお金がかかる。三河門徒の国越えの話は、牟礼村のときから興味深いテーマで、この館をつくったメンバーでも実際に愛知県の方に調査に行ったことがあった。こちらにある姓と同じ姓の方々がたくさんいるとか、明専寺さんと兄弟のお寺が今もあるとか、信濃に持って行こうとした仏像が今も残っているとか、いつかは展示会をやりたいテーマです。ただし、先祖を掘り下げると、本家の問題とか、別の問題が出てきたりして、説明に難しさもある。

富樫:一般の興味や関心を集めやすい話題なので、じょうずに企画できそうであれば、ぜひ取り組んでみたいテーマです。ただし、2階の既設展示には、芋川氏等に関する紹介はほとんどない。町内に当時の遺物が出ている場所もあるので、そういう展示とセットにした特別展ができれば、より良い企画になると思う。

委員:人に来てもらうことがとても大事。町内には雨の日に行ける施設があまりない。当館がそういう時に利用できる施設になるといい。晴れたときは3階で景色を見てお茶でも飲めるといい。ただ、雨の日は景色がよくない(笑い)。周辺の博物館では、お茶などが飲める場所についてどうでしょうか。

富樫:最近喫茶コーナーのある博物館が増えている。ナウマンゾウ博の場合はいかがですか。

委員:博物館は人が集まる場所で、人が自由に集まってくつろげる場を提供することも大事なポリシーとしてきた。歴史や自然を感じながら、ゆったりと寛げるラウンジがあるといいが、残念ながら十分なスペースがなく、現実には難しい。結局自販機を置き、周りにアーティストの方に描いてもらった町の様子ので壁画を用意したくらいだ。

委員:それから駐車場が砂利敷になっていて、雨の日に来てほしいといっても、足元が汚れてしまうような状況では困る。駐車場をアスファルト舗装するような、改修予定はないか。

富樫:直したいところではあるが、まだ予定は立っていない。

委員:駐車場だけでなく、外構もきれいにしないと。

委員:公共交通の便ということでは「いいづなコネクト EAST・WEST」にはバスが来るが、町民会館にバス停がないというのは不思議なこと。ここで特別展をやっても、車の運転がままならない年配の人はどうやって来ればいいのか、i バスを予約するしかないのか。今あるバスの運行ルートにここを入れてもらうだけでいいので、町の歴史がわかるこういう公共施設にはバス停

を置いてほしい。町制 20 周年に何かやるというだけでなく、今できることをちょっとずつやっていって、その蓄積で 20 周年のときにいろんな人が来られるようにしたほうがいい。町全体の地形模型も牟礼の模型は歴史ふれあい館に、三水の模型はアップルミュージアムにあって、ドッキングすれば町の形になるというのではうまく説明できない。早急に一つに整備してほしい。

富樫:はい。それは今年度内に行う予定でいます。

委員:地形模型は、やはり3階に置くことになるのか。

富樫:はい。

委員:まず1階に町の地形模型があって、そこで最初に地形の感じをわかってもらいたいようにも思うが。

富樫:そこは悩ましいところがあります。この施設の場合、町や山の眺望と地形模型をセットにすることで一つの見せ場に行っていることから、3階に置く予定にしています。

委員:今の模型は処分してしまうのか。

富樫:それも含めて検討中です。できれば既存の模型につなげて範囲を拡張したいのですが、一から全体をつくったほうが、逆に安価に出来そうだという説明も聞いている。

委員:三水と牟礼の村の成り立ちには、鳥居川がひとつのキーポイントになっている。鳥居川から用水をとり、村や産業ができてきた。その中で苦労しこれまでやってきたという歴史がある。

富樫:去年の特別展ではその部分をテーマにした。特別展を通して集めた知見をもとに、2階の既設展示の一角に新たに水に関わるコーナーを設けることはできる。町の成り立ちにとって、その部分を大事にしたいということであれば、まずそこを優先的に手がけて、令和7年度に間に合うように展示改修を行うという選択も可能だ。

委員:農業者にしてみると、その点はとても大事だと思う。

委員:最近妙高のビジターセンターと糸魚川のフォッサマグナミュージアムに行ってきたが、あそこでは CG を駆使して白地の模型にいくつかのテーマの映像を映していた。ひとつの特別展をやったら、その新たな映像をつくり、アーカイブとして残していくということもできるのではないか。お金をかけるとすれば、そうやって後々にも役に立てられるよう蓄積していくといい。

委員:この宿場町のジオラマについても、今度「食」をテーマにした特別展をやるということなので、宿場でどんなものが食べられていたのかということには興味がある。ボタンを押したら、「たまごふうふう」のお膳が出てくるとか、家がちょっと動いたら、そこにお膳がならんでいるとか、そ

ういう仕掛けがあると面白い。食べものには魅力があるし、玉子百珍とか豆腐百珍とかの料理本があり、江戸時代の食べものが今の和食の原点になっていることも学べると思う。

委員: 特別展の展示を、キッチンカーで食べられるようにできるといい。

委員: 令和7年度に、展示の見直しとあわせて特別展を企画していくとすると、戦国時代の山城というのが今人気を集めている。昨日、若槻の郷土史研究会の講演を聴いたが、ここだと上杉と武田の影響をどのように受けてきたかというような、有名な武将の名が出てくるとさらに興味がわく。今の展示は地味なので、そういう目を引く話題を入れた企画があるといい。町にある資料にあわせて、県の歴史館や市の博物館などにも関連する資料があると思う。

委員: 北部高校にいたときに鼻見城址などに子どもたちをよく連れて行った。すぐに行けるし、眺めがよくて地形もわかる。「のろし」を上げるとここここが繋がるなどかがわかる場所だ。特別展などで、マイクロバスを使って山城をつないで歩くツアーなどを企画したり、実際にのろしを上げてみたり、そんなイベントがあれば子どもたちも喜ぶ企画になるのじゃないか。

委員: 「のろし」は、以前に「があたり塾」で沖さんがやったことがあり、私も参加した。そのときは、携帯を使って、「今焚いているけど見える？」とか連絡をとりながらやってみて(笑い)、おっしゃるようにとても面白くて興奮しました。

馬島: のろし台とかは、飯田のほうにもあったね。

富樫: 計画の8ページ既存展示の改良・補足・追加のところに、「山城があった時代」という見出しがある。展示にあわせて山城のガイド機能をもたせるということも付記してあります。歴史を扱うときに、そこに行ってみたい人に、どうやって行けばいいかという情報も一緒に提供できるよう、工夫をしておきたい。

委員: 今までやってきた特別展の全てを10分くらいの映像にまとめて見られないだろうか、と思う。1年は12か月あるので、たとえば12本の映像にまとめて、「水」とか、「戦国時代」とかいうように、月ごとにそれぞれのテーマの映像が見られるようにしてはどうか。ビデオ編集委員の人たちは大変かもしれないが、そういう人たちの力も借りて。それと、テレビの大河ドラマと展示をタイアップできないかなと思う。家康のドラマがあれば、その頃の飯綱町をテーマに。それから、北信五岳とかの山々と飯綱町ってどういう関係なのだろうと。噴火があり、黒土や赤土があって、というようなことは聞いたことがあるが、山の出来方と飯綱町の歩みというか、そういう切り口があってもいい。水の話があるのなら、山の話もあっていい。

委員: 旧牟礼村と旧三水村との戦国時代からこれまでの交流の歴史とかはどうなのか。

小山: 合併10周年記念のときに、もっとテーマをしばり、そういう特別展をやったことがある。江戸時代の初め頃は、飯山藩と長沼藩がそれぞれ三水地域、牟礼地域のはじまりになっている

ので、その頃のことを取り上げた。合併で牟礼村がなくなる時は、「牟礼の50年」という写真展を開催した。三水村ではやっていない。いつか町民から古い写真の提供を募り、飯綱町の歩みという写真集ができるといいと思う。これまで牟礼村の写真集はないが、三水村には立派な写真集がある。ただし三水村の場合は、写真集に掲載されている写真の提供者がわからないのが残念。コロナ禍の断捨離により家からどんどん古い写真がなくなっているようなので、今やらないとできなくなるかもしれない。区単位では、そういう企画をやりたいと考えているところもあるようだ。役場にも広報紙などでとった写真がたくさんあって、生かせると思う。自分の家の写真に、別の人にとって大事なものが一緒に写っていることもある。歴史上、牟礼と三水に別れて400年以上が経っていて、一緒に歩んでこなかったということがある。

委員:嫁に行ったり来たりという歴史はたくさんあるのではないかな。三水から牟礼に嫁げば牟礼の人になって、その逆もあって。

小山:生活上のつながりというのは密接にある。

委員:小さい三水村の中で、若干の方言の違いとかもあるんだから。

委員:中学に行ったときに、赤東語というのがわからなかった(笑い)。牟礼と三水とで郷土食の違いというものもあるのでしょうか。

委員:三水地区のほうは飯山との共通性があるし、牟礼地区のほうは他所からきた人の影響が多いようだ。宗教の違いでも、牟礼は浄土真宗が多いでしょ。三水のほうは禅宗が多いし、行事食にも違いがある。それと、「むじな団子」なんかは牟礼の人はやらないみたいだ。

委員:3階にもう少し見せるものがあっていいのでは。星の写真は少し端の方にいっちゃった。

中村:文化財展をやったとき、飯綱町の新しい文化財にしてもらいたいものを聞いたら、「星空」という提案があった。館をつくる時、それを考えて3階に星のコーナーを設けたというわけじゃないが。せっかくあれだけの設備があるので、星空が見られる設備があることをもう少し一般の人に理解してもらいたい。そうすれば観望会への参加者ももっと増えるんじゃないか。

委員:観望会をやっているが星座の展示がなくて、やっていることと展示がマッチしてないのではないかな。今日見られるものはこういう星です、というような説明はあるのか。

委員:ベランダに出て、レーザーポイントで示すというようなことはやっている。

小山:パソコンが観測室内に1台あり、ステラナビゲータというソフトで見られるようになっている。

委員:隣接するゴルフ場の夜間照明が、西黒川地区のほうから見ても光害のようになっている、星空を見るのに障害になっている。

委員:去年に比べると、ふれあい館の方にはあまり照明の光が当たってないみたいですけど。

富樫:3月に町の景観審議会があり、私もその委員として出ています。昨年夏に設置されたあの夜間照明は、町の景観条例に基づく届け出案件の第1号だったようです。しかし、設置にあたって当館に事前の相談は何もありませんでした。そこで3月の会議のときに、当館の天体観測に影響しそうなので、何等かの配慮をしてくれるよう役場からゴルフ場に話をしてほしいと要望しました。その後役場からの報告はもらっていないのですが、その申し入れがゴルフ場に伝えられて少し配慮されたのかもしれませんが。会議の中では、町の担当としても、照明設備の設置の届け出は受けたが、周辺が照らされることによる光の影響については想定していなかったということでした。そういったことは、これからも、気が付いたときに声を出して相談していく必要があると思う。

委員:今までの議論とはだいぶ違うのですが、ふれあい館にいかにして若い人に来てもらうかを考えるとき、テーマとして「将来飯綱町をどんな町にしていきたいか」ということを小・中・高校の人たちに考えてもらい、それを発表してもらうような機会を提供する特別展はできないかと思う。ここに住み続けていく若い人たちがいることで町が持続していくので、若い人たちの感性をいかにしてふれあい館の活動に入れていけるかが大事だ。過去の出来事を集めて紹介することは博物館は得意だが、この町で、産業とともにこれからどうやって生活をしていくかということも含め、町の将来を問いかける展示を、時間をかけてつくっていくことも重要。小学校の地域の授業でもいいし、大学でも地域づくりをテーマした教育活動をいろいろやっていて、そういう人たちが中心になってもいい。飯綱町がこんなにいいところだということを言い続け、子どもたちにわかってもらう、そういう特別展があってもいいと思う。それは地域の博物館としての大きなテーマでもある。最近では、そこそこの生活をしながら、自然豊かな場で、精神的に安定した生活を求める人たちがけっこう増えている。その意味で飯綱町は本当にいい、ほどほどにいいところだ。そのことをわかってもらえる展示を考えてもいいのではないかな。子どもたちが興味をもてば、親たちも関心をもってくれる。飯綱町には、WESTやEASTのようなところでいろいろな活動もやられているし、そういう人たちの意見も入れて、ここに住みたくなるような展示をぜひしてほしい。

中村:教育現場でも、この町の良さに子どもたちが気づいて、それを自分事として発展させてゆけるような学習ができると思う。企画展に住民が参加し、町づくりについての提案を発表できる場があれば、それだけでもかなり違った意識になる。町には町おこし協力隊の人たちもおりますね。

馬島:任期が決められていて、町に定着する人も、しない人もいますが、毎年2~3人ずつ面接を行っていて、増えていっしやる。

中村:清泉の学生さんが、栄町の駅前通りの活性化をテーマに検討してくれたことがありました。その発表会は見事なものでした。そういうことは高校生でもできるよね。

委員:小学生でもできます。小学生もしっかり考えられるし、我々とは感性も違う。タブレットや PC を使うことについても進んでいる。

委員:5月2日でしたか、長野で獅子舞フェスティバルがあつて、中央通りがすごい賑わいでした。飯綱町はほとんどの地区が同じ日にお祭りをやるので、じつはお互いのお祭りの様子を見ることができない。たとえば獅子頭をここに一堂に集めるとか、それぞれ特徴のあるお囃子があつたり、それをBGMで流したりとか、そういう企画があつても面白そうだ。

富樫:以前、町のビデオ編集委員会で、各地の獅子舞の記録をとっていましたね。

馬島:小学校が閉校するときには、赤東区のそれぞれの集落の獅子舞があつて感動的でした。

委員:一堂に、ということになれば強いインパクトがある。

中村:そういうのは公民館の企画としてもできるよね。

委員:あれ、こっちにお鉢が回ってきましたか(笑い)。

富樫:それこそ、歴史ふれあい館と町の公民館がタイアップできればいいですね。

委員:お祭りの話は前から聞くけど、なかなか出来ていない。若い人の協力や稽古のスケジュールがうまくそろわないとか、難しい面もある。

中村:お祭りといえば、祭りそのものが、後継者がいなくて困っているという問題もある。

委員:お盆の帰省シーズンに合わせて、全ての地区の獅子頭を集めた企画展示をやれば、帰ってきたついでに見に行きたくなるかも。

中村:こういう話になると議論が尽きないです。今日出たアイデアについても後で一覧にしていたでいて、それを見ながら、20周年には、これとこれを抱き合わせにしてはどうかとか、あるいは特別展でなくても展示会場の一部にこういうのを入れるだけでも違ってくるとか、何かの実現ができるような方向で次回の会議も進めて行きたいと思います。今日の資料にある令和4年度の報告とかは、持ち帰ってぜひ目を通していただき、次回以降の議論を深めていっていただくようお願いいたします。では事務局に進行をお返しします。

(2) その他、連絡事項

富樫:ありがとうございました。中村会長の進行のおかげで、報告事項の時間を縮めた分、これからの活動に向けての検討の時間を多くとっていただくことができました。さまざまなご意見や思いもかけないアイデアもいただき、協議会の会議の醍醐味を感じました。ぜひ、いただいたアイデアをより良い形にしてゆけるように事務局でさらに検討していきたいと思います。会議の時間は限られていますが、協議会そのものはいつも存在しています。今後も何か気が

付いたことがありましたら、いつでも私や小山さんにお伝えください。今日の資料を見て、ここが疑問だったとか、そういうことも何かありましたら、ぜひご連絡をお願いします。では、最後に教育長より一言お願いします。

馬島:熱心なご意見、ご議論をいただき、ありがとうございました。当面は一つ一つの足元を積み上げていくのですが、積み上げるときには20年30年先を見通した視点が大事になる。そういう点でいろいろな示唆をいただき、私も大変勉強になりました。こういう検討を重ねていく中で、イメージがより明確に出来上がっていくことと思います。今後ともよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

富樫:大変お疲れさまでした。これで閉会とします。

(閉 会)